江戸幕府禮法要抄 八

衣服制度沿革
先達例

ワ 3
2532
8

7 3
2532
8

衣服制度的例

一 [illegible]

一 [illegible] 文化[illegible]年[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible] 文化[illegible]年[illegible]

一 [illegible] 文化十二[illegible]年[illegible]月[illegible]日 中門

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

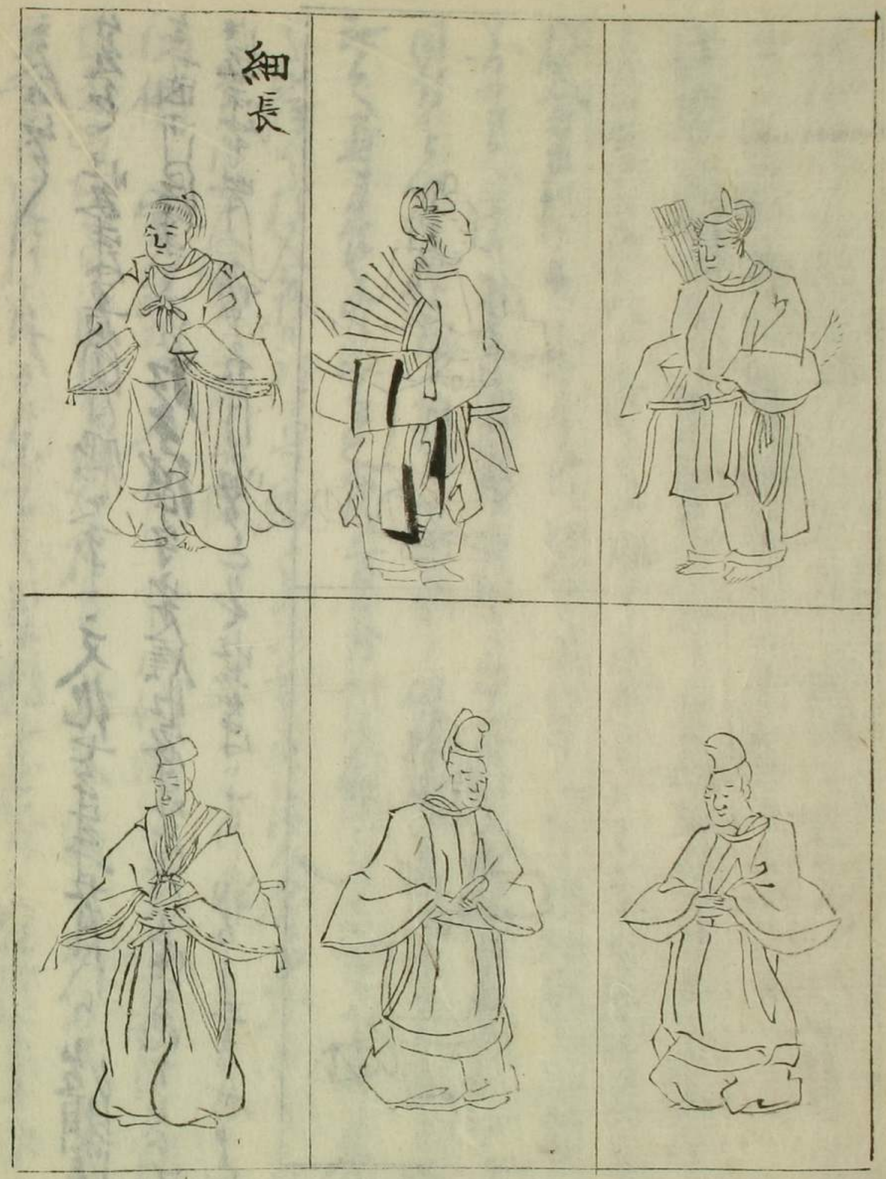
一 [illegible]

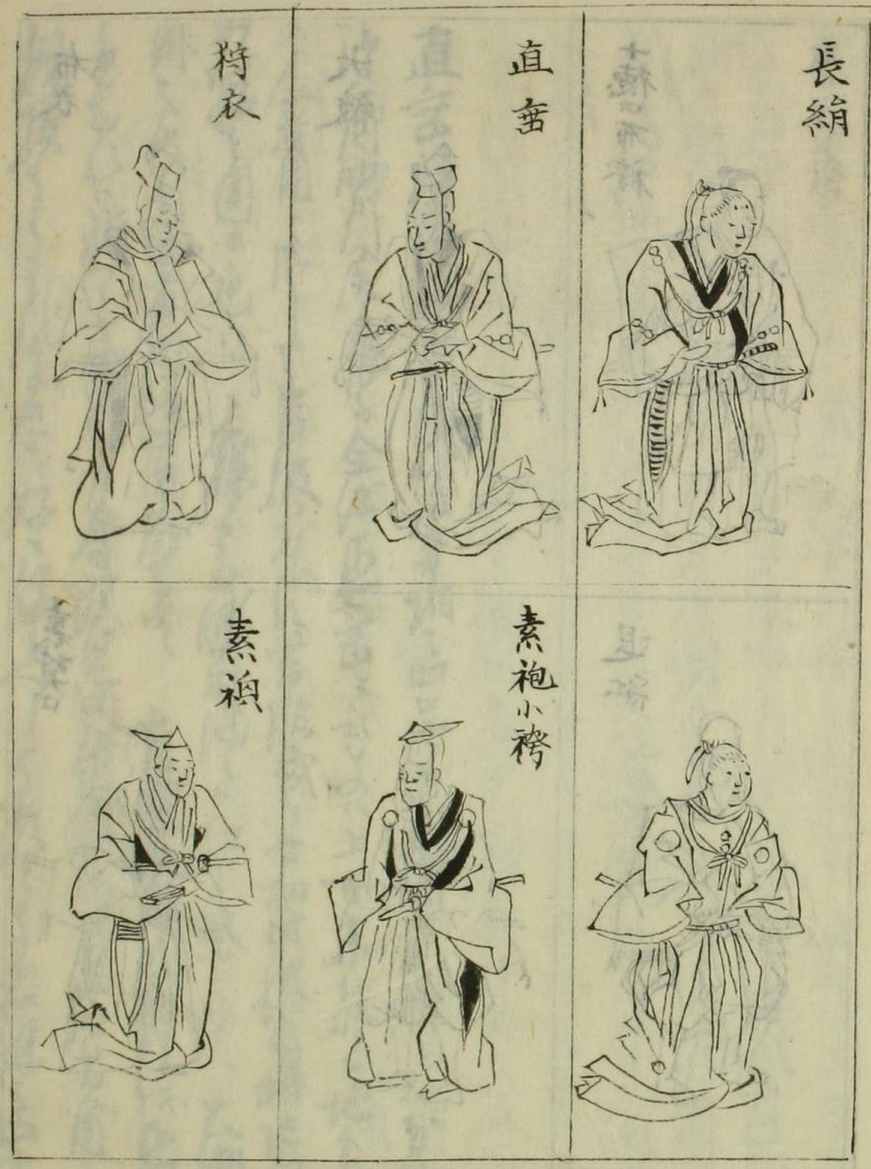
[illegible]

的例　寛政九巳年三月十日八代洲の君五井大炊助日割御合
[illegible]
[illegible]

一

文化七午年月八日後鶴隠様
[illegible]
[illegible]


細長


長絹
直垂
狩衣
素袍小袴
素袍

布衣

大紋

十徳布袴

裏打合

退紅

裔衣美袴

一

直宝法師之子孫上宰相西品之是を公卿と云り御家
法御門戸を開き全体西之流と云もの上古未だ地下と云
の公家角之庶子と云り官位ハ常服成と云相伝高蒔絵
袴を用ひ色ハ 上様を薄萌黄袴 大酒云袴
緋之色と云義有 浦天鵞絵 白袴
色ハ白袴と云 合浅黄袴 白袴
根袴と云 袴之色ハ 袴之色ハ

白地にし　御透組好にて　紗地にて組好ハ住にて家来にて用　蔵屋敷
ことに紗綾緞子　縮緬にて用　御両袖白紋付にて絹紬之色
紫色を用ふ　小袖ハ定紋にて　袖も通しにて　袖紬(?)
ことに白にて白羽二重にても不苦と云　白地袖ハ紋付也
御袖継に　帷子に袖紬をいつにて　紫にては　賀衣
のせし　通して其余を帷子にて是をさし　云　御膝下
脇も白地組ハ白き組好を用ひ　当用ハ縫ハ小紋　ハ小紋
ことにて織物をも用ひ　用是を練糸と云
上様ハ白き織物を用ひたまふ
将軍四品以上ハ白地上京都にて唐織を用　着る　法衣斗也
故に将衣と云　御地をすのして　役々にて地紋也と云地
をつめてそれ　すの是を長文綾にて　御地を
用てもよろし　色を好み　役々にて　織物也

一

家紋ハ京都にて丈を通ひ　或ハ白紋を用ゆ
袴を通し　納戸ハ白の縫紋にて　二ツ
ますとて京都にて　地紋ハ将衣裏地に縞
ありし京都にて地紋ハ丈の小紋にて　地紋七
中年七月五日　御所にて学問所にて　御紋
裏地将軍以上一日御紋を掛けて　御判貫奴袴と云　又
指子と云京都にて八幡と云て将軍　武家の縮緬
武幅にて地紋を又将軍を用ひて小柳と称し　織物を用
ことにて四品以下ハ紫地にて用　有職の将軍代に　三位以上を
例にて地紋にて無紋なる事　ことに紋に文化年
中土州濱器にて紫を用ひる内に上下に文をつけて云
此将軍の縮緬上縫上に縫ハ縫の下にも縫い下にても
白無地にて上に　当用を着ける上に縫を用ひ下縫ハ真綿を用ひ

一
さる事さ成来り凡て全く是と今までの故是実ハ此合用さる
こゝの事ニ正心伝之流ニ宗之用出判定をあきらめ淺止ニ正宗之時ハ庵
を本式として用ひ候ものぞ相閉之用て捷すへし

一
大紋長裏の事（大紋と云ハ大紋ニ紋を付たるなり　石月相通）
有德院様御代迄ニ紋長者ハ将茂を納入さし添る此字保に至る之の
如く此たるの相大紋と合せ古く三法着て用ひたるの今ハ人に定まらん　又
地ねハ私る茂之胸を用ひあるに当用ハ結麻布文　麻流染麻上下れ扱
用ひ候事ニ略して作する御用一紋を数九つを本式と兼て標て下に紋
さゝ吉兆上下五つ下に四つ胴も宮所是の紋の事　紋の外絹よりの紋
ます一　両袖に宮結さ上也之細帯入結と通すべし胸結これ太平洋で
正宗と同し此中帯ニ事作を　浅紫直或ハ白の系ニ事同じ川
不苦之内浅黄等ニ　初勝を下に麻五白之紋結自事本式
似せて白布染用ひ正義　高縁ニ正宗大紋ニ又茶帯紋

一
結ひ下ハ長之古実ハ知らず事ハ無之　紋合ニ其事を細き也
勝るを下に結ひて本式を今と之く事を此方ハ略して至て
又下結ひて袖之仕立てハ其道具之事

一
大紋の紋所之事　留紋茶ぶ申年正月御大久保安芸守大紋之延
緑竹下の結ニ紋所を著用之事　浅勝道安芸守弐角大紋
所謂浮紋ニ宗寺西殿太田何浅自ニ於ニ以沼右衛門右肩大関多当座
大和守ハ安芸守紋と事　宗左衛門湘浦紫染ハ紋ニ当然を是ニ而
本紋古き紫染掛ニ本紋ニハ将茂と事ニ此事ハ中々とも　勝頼
本紋と云ふ右同前之古実ハ様ハ将茂を用事にて地ニ而本紋之様る
本将茂と云也　本紋ニ出入事ニ而入ハ之衣是まで紋を用とハ兄
以後ニ至り　多く本紋を用ひらるゝ也武家ニ本茂を此偉人ハ当時之を用
陰居ハ只之滑合を紋尽の用也文化年中当川ニ朝鮮役乗騎
とどる今御制を好まり　忠之事是大全一　紬結ハ将茂用ひし　判然

年波等を用ゆ

一

京腰麻布腰上下を不分怪しく紫革にして拵文らんらんたるこの腰を云腰袍向一上着の紫革を云腰袍を云一説に云ふ　此布古義（ハカマ）裙と共に法服の袴を用ゆ腰袍を包み花紋を織出だす或は上下と色変らず又中絞を用ゆ　袴四幅を用ゆ腰を結ぶ又袴を腰に結ぶ

長上下法服を用ゆ事中古　當時法服を用ゆ事歟

一

文化八年二月法服を改む上下と

用ひらるの内侍法服を腰に結ぶ又国事常に腰を大石絞を用ゆ

用ひらるの外を也事なり是も法服を押る

法服を也事なり定事なり　偶中絞

を用ひらるの外　享保の比殿中多く法服を用ゆ

宝暦年間法服を用ゆ

一

法服を上下と云ふ　今上下と

あらため号刑部大輔義満公の内也の位袴殿中

法服を出ず　袴を用ゆ　袴の脇を結ぶ出ず上下を

脱ぎ　又上古代の事歟の有馬法服　汗衫法服

の色　正殿　肩衣生絹　大刀　殿中加る云々

定家卿法服　清原家は代々出陣の時合戦の時

袴を用ゆ　袴を結ぶ　袴を着せず　袴を脱ぐ

法服を脱ぐ　袴を脱ぐ　袴を脱ぐ　今の上下と云

[illegible]

一 芭蕉布歴下之事　享和年中[illegible]夏向芭蕉布歴下者国[illegible]

一 裏附[illegible]歴下之者　[illegible]

[illegible]

一 長崎下帷子深川之事　[illegible]

[illegible]

一 羽織[illegible]羽織[illegible]

[illegible]

[illegible]

用ゆる色もありこと○膝之地用ゐること定なし 有官ハ九月八日迄
夜ハ有紋用ゆ九月九日より有官ハ冬之紋地絹也無官ハ学
衣帯用ゆ事通例 袈裟院様法式万法官之文之紋ニハ濡子紗綾
用たる事也

一 士庵医師之膝被 紫又後阿部通例用縹羽二重ハ士庵と云ものも着る
絶ハ羽二重を膝に用ゐる事あり 萬布又麻布之膝之役と付之着
事なれハ猶好事也 懐早ハ今ハ京都にも有之

一 袈裟具ゆ者を着するニ膝之き被為帽子も冠らせ被仰付候 士被 求ても可
定なるゆへ 士庵と云医師も有之医師ハ士庵之通着 膝之出来事候也

一 白布絹是を小袖之様ニ縫立法衣ニ着ても用ゆるも又ハ二つにも
着用する事 子細あし 公家ハ法衣用ゆるニハ廣袖着用ニして白綾

一 衣用ゆ今日ハ法服之法衣之裏張ニ大袈裟を用ゆ衣ハ黒白
帽子を用ゆ法帽子も来着之なり 又旅文化六年四月より相成候

一 論語ニ有衣ニ裳なる時大袈裟を用ゐる衣ハ深帽子着用の上
衣の裳を袈裟ニ用ゆ事 ニハ袈裟ニ而用ゆるを得るとそ也

一 廣袖用 今時のしめ衣ハ衣ハ袈裟ニ用ゆ事ハ衣ニの衣之衣を今をまで
衣をも用ゆ衣を衣ハ衣ニ衣ひて衣ハ衣ふとを云ふ 今ハ衣ニ
衣を衣の法服を衣式とし法衣ハ衣ゆるを衣ふ衣法衣衣も
衣ハ衣のふ法衣のしめハ衣衣の衣衣とこれを衣ふ衣ニて衣上
のとの衣ふ大法衣或ハ衣法衣之衣用ひて衣ニ衣衣衣衣衣ハ衣用衣衣
法衣有法衣ハ衣ニ衣之衣用衣之衣文化衣或ハ衣衣衣衣衣衣衣衣
自 法衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣 人

一 法衣衣衣を衣衣ニ衣衣衣衣衣衣衣 衣衣衣衣衣の事 全衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
○衣ニハ衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

一 衣衣衣衣衣 享保十五年三月衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
着用衣衣衣 八衣法衣ハ衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 華火羽織之事　文化十四丑年十一月二日　久世出雲守へ問合

火事有之節消防場所江相越又ハ見廻等ニ御城より罷出候節ニ華

羽織着用之儀侍之分ハ火事装束之通ニ而着用いたし候哉　猶又華

火事羽織着用之節ハ御徒目付向へ相断候ニ不及候哉

一 御成先諸向例

御成道且通り切場之事　寛政元酉年十二月十日　米倉丹後守殿

御組頭并御徒目付衆　御成之節ハ通り切場所江罷越候

持場之儀申合通り切ニ付場所ニ而越候ニ及

[illegible]持場之通り切場所役人共差出候事

御成先ニ而場所へ相越不申候　御成之節ハ大切之儀ニ付

通り切場所へ罷出候而ハ往来之者共差留通り切場ニ而

越候へ共下知ニ及候事

一 右之通之節ハ一通り相済候

御通り之節御成之節ニ寛政四子年

公方様還御之節ハ見定大手前ニ而御通り之節

御成前之儀ハ御目付衆ニ而還御

一 百間より御茶屋御成ニ付[illegible]

一 御城近辺御出之事　享保十六亥年十月

公方様大猷院様　御城中御成之上両御丸ニ而御法会御座候

法事之節御成之節　但

御参詣之節　但　右御当番之時与力同心

右四年　長可被仰付候事

一 御成之節　御目見得　宝暦十五亥年十二月十二日

大納言様御誕生日　御城中御成被為在候付　宇都宮守

一 居処之儀同出来　御出帰　同二月廿日

大納言様御誕生日ニ付　表門通

御成之節　御目見

一 御成之節　御法会　御座候

一 右之通　御座候　安心

一 御成之節　御目見

一

一 法事之節　御成之上　右御当番

但之節　御本丸

右之通

一 大目付　牧野　右衛門

伊賀守　御目見

一 御成之節　御目見

御用人　右之通

一 御成之節　右之通

一 御成之上　安永

元和大和守　当番

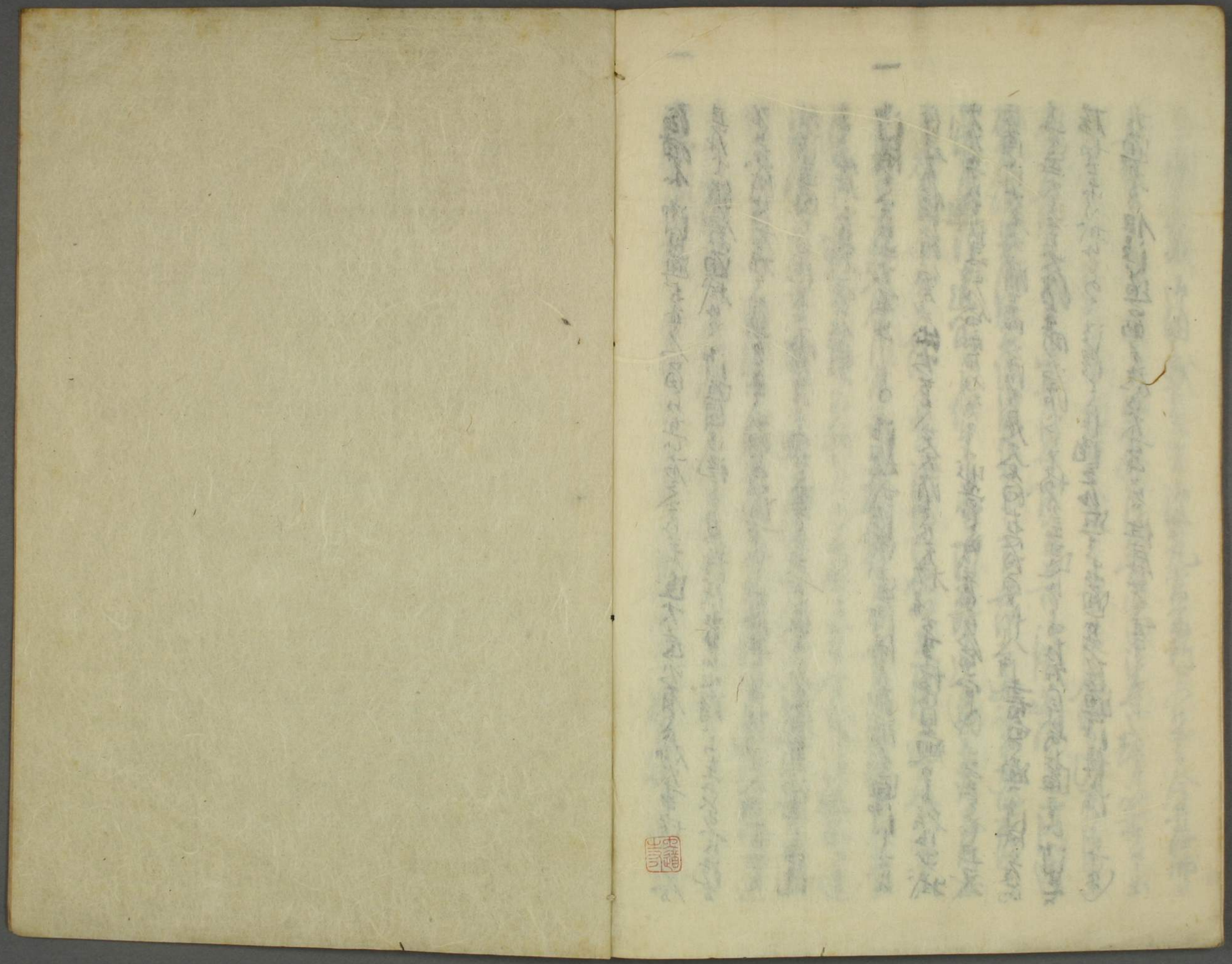
一

皆只今罷出候ニ付其後の出し方長崎江段御用番江申達候事
出頭候處以前之趣左衛門尉殿被仰候趣御達
急御用有之旨被申渡候故早速罷出候所老中御殿之間
出頭之節御用番阿部豊後守殿被仰渡候趣
被申渡候處御書付之通可相心得旨被申渡候
御書付差出候處無相違御請申上候
御殿江罷出候處御用番江申達候処右之通被仰渡
も有之候ニ付此段御届申上候
御通國之儀御尤ニ候得共御役人中江申達候
通候 御書面之通被仰渡候旨
御書面之通相心得可申旨
見合 御用番江申達候處
国元江御届之儀相違無之候
御断之儀ハ 御請書差出候處

候得共路之通被成下候 右之趣御届申上候 以上
国元為御知 相模守殿当着之上御用番江差出候
四月廿日 御用番江申達候處
所司代江御届申上候 四月十五日 御用番
右御用番江御届申上候
御用番江御請申上候
相模守殿御達之趣
御書面之通被仰渡候 右之通
相違無之候 御請書差出候
松平越中守殿御達之趣
御書面之通相心得可申旨
四月廿三日 常盤橋御門御番元利大和守殿
要人様江罷出候 四月廿八日 御用番

一

[illegible]

一

[illegible]